

平成28年6月23日

西部農林振興センター県央事務所農業普及部大田支所

標 題

大田市ぶどう生産組合の若手生産者が大田市長にぶどう贈呈  
～目指せ1億円産地！ビジョン実践に向けて！～

(ダイジェスト)

去る6月15日、大田市ぶどう生産組合若手生産者5名が産地ビジョンの実現に向けた行動初年目の取組みとして、昭和40年の生産組合発足以来初めてとなる市長へのデラウェア贈呈と意見交換を行いました。最後には、市長の掛け声に合わせて、皆で「1億円産地達成に向けて頑張ろう」と大きな声でコールし、今後の飛躍を誓い合いました。

大田市ぶどう生産組合では、若手生産者5名が中心となり、平成28年1月に産地の目標と行動計画を定めた産地ビジョンを策定しました。この度のぶどう贈呈は、産地ビジョンを策定する過程で、生産者から、ぶどう栽培に熱意を燃やしている大田の産地を市長にPRしたいという声があがったことがきっかけとなり実現したものです。

6月15日、若手生産者5名から市長にデラウェアを贈呈し、試食していただきながら、意見交換を行いました。生産者からは、「幼少期から父親がぶどうを栽培する姿を見て、自分もぶどうを作りたいと思った」、「手間をかけ愛情を与えて育てたぶどうをぜひ大田の皆さんに食べていただきたい」など、ぶどう栽培や地元に対する熱い想いを語りました。それに対し、市長は「大田で米、畜産を除けば、1億円を達成している農作物はない。今回1億円という目標が立てられたことは非常にうれしい。今後も支援していく。」と、熱いエールを送りました。

そして、市長の掛け声のもと、生産者と関係機関で「1億円産地達成に向けて頑張ろう！」と大きな声で唱え、一致団結し取組んでいく決意を新たにしました。

今回の市長へのぶどう贈呈で、若手5名のぶどう栽培に対する熱意はさらに強まりました。今後普及部としては、「1億円産地達成」というビジョンの実現に向け、より一層の支援を行っていきます。



ぶどう栽培にかける想いを市長に語る生産者



1億円産地達成を意気込む市長と生産者

担当者

大田地域振興課 石倉 圭祐

TEL 0854-84-9710